

昭和二十五年十二月一日提出
質問第一四七号

警察予備隊員の解雇に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

昭和二十五年十二月一日

提出者 横田甚太郎

衆議院議長 幣原喜重郎 殿

警察予備隊員の解雇に関する質問主意書

- 一 警察予備隊では、最近盛んにかく首をしているが、かく首の理由は何か、明示されたい。
- 二 かく首されたものは総計何人か。
- 三 聞くところによると、発病を理由としているそうだが、入隊後の発病であるのか。病名は何か。入隊当時に厳格なる思想検査、身体検査をやったのか。やつたとすればその結果はどうであつたのか。やらないとすれば、検査をやらなくても採用できるような規定があるのか。又、検査をやらずに急に人を集めねばならない理由があつたのか。
- 四 いずれにしても採用しておいて、今頃になつて病気という理由で首を切るようでは入隊後、一体どのような給食をしていたのか。どのようにむごい取扱いをしていたか。（訓練、時間、種目等）
- 五 今後発病を理由に相当数の被かく首者が出るか。出るとすれば何人位か。その補充に対する政府の対策如何。

六 米国人教官が一切の訓練に当っているそうだが、米国人による日本人の戦闘訓練類似のような（戦争を放棄した憲法をもつ平和国家の日本人が）ばかげた訓練を今後いつまで何百万人が受けねばならないのか。

このようなことはだれが計画し、だれが実施に当っているか。政府は政府がやっているというのであるが、今回の被解雇者が、解雇の異議申立をしたとき、当事者は返答に困り、外人教官さえも、私では何ともできぬといったというではないか。これは現実の事実であつて、戦争に狂奔する夢の国のいくさ物語の一節ではないのだ。

七 右の被解雇者に対する処置はどうしたのか。

右質問する。